

進行管理調書作成時の評価方法の変更について

変更前

【評価基準】平成○年度の取組において

- A…計画時の目標以上に達成できたもの又は前年度に比べて数値的に伸びが見られ、施策の前進が認められるもの
- B…計画時の目標をほぼ達成し、事業を維持・継続して行ったもの又は経常事業で実施状況に変化がないもの
- C…できなかったもの
又は事業内容の目標達成に向けての進捗がみられないもの



変更後

【評価基準】

- A…目標を達成できたもの
- B…目標に対して進捗があったもの
- C…目標を達成しておらず、
目標に対して進捗がみられないもの

【変更点】

- ・5年間の共通目標として事業実施目標を設定、取組み内容の詳細は調査表に記入する。
- ・前年度の評価「A」の水準で実施した事業は、今年度も評価「B」でなく「A」とする。
- ・経常業務についても、取り組んで前進していれば評価「B」とする。
- ・最終的に目標未達成であっても、他市より高い水準の事業は進捗があれば評価「B」とする。
- ・公表の仕方について、総括に評価「A」・「B」を合わせて全事業のうち○個が前進している、と記載する。

【前回の幹事会で出た意見】

- ・前年度大きく前進し「A」となり、今年度はその高い水準を維持したものは「B」となってしまう。また事業の性質上、前進し続けることが難しく「A」にならないものもあるので、評価方法について検討が必要
- ・目指すところは、「A」に持っていきたいのか、それとも「B」でほぼ出来ているということで良いのか。
- 事業の性質によって淡々と進めていくべきものもあるので、前進していなくても「A」とつけてよいのでは。
- ・「B」評価でも実施できているのであれば上出来だと思う。たださらに取組を促進するため「A」になればなお良いという位置づけであり、必要がない事業のため取り止めるのであれば「C」をつければよい。
- ・評価基準の公表方法も検討が必要。目標達成以上の「A」と目標達成の「B」を合わせて、全事業のうち何個達成している、と公表してもいいのではないか。また現在の評価基準の「又は」以下を削除してもよいのではないか。
- ・提出している課としては、「又は」以下がある方がよい。
- ・他課の計画の評価方法、評価基準等も参考に検討すべきである。
- ・数値だけ伸びたら単純に「A」で、その事業が目標の本質的な課題解決に達しているかどうかは数値の上昇だけでは測れないのではないか。全庁的に評価基準を統一した方がよいかもしれない。
- ・事業の内容によっては「B」でも良いと感られるものもある。
- ・他市と比較すると進んでいると言えるのに、あくまで目標以下なので「C」となってしまうものもある。目標をクリアすること自体それはそれとして評価し、総括でフォローするのが良い。
- ・数値だけでなく、事業の中で工夫していることなど取組の内容について記載する箇所がある等、実施した内容自体を評価できる仕組みがあればいいと思う。
- ・評価の方法に取組内容を考慮できる仕組みを取り入れた方がよいが、ある程度数値目標は必要である。
- ・数値に現れない最終目標に近づくための取組があったと評価できれば考慮すべき。ただ数値以外の評価には主観も入るので、担当課としては厳し目に評価すべきである。
- ・例えば5年計画の中で、5年後に達成する目標数値を単純に5で割り、1年度あたりの達成すべき数値を算出、各年度間の数値の伸びに差があってもその年度の目標に達してさえいれば、「A」評価をつけるという判断のやり方もある。